

平成 25 年度 第 1 回 新潟市水道事業経営審議会 会議概要

日時：平成 25 年 10 月 11 日（金）午前 9 時 30 分から

場所：水道技術研修センター2 階 会議室

<p>事務局</p>	<p>————— 開会 9：30 —————</p> <p>ただいまから平成 25 年度第 1 回新潟市水道事業経営審議会を開催する。</p> <p>本日は 1 名の委員が都合により欠席であるが、当審議会条例第 5 条第 2 項によって、当審議会は委員の半数以上の出席をもって開催できることになっているため、有効に開催できることを報告する。また、公開会議のため、本日は 1 名の傍聴者の方がいる。</p> <p>なお、議事録作成のための録音を了承願う。</p>
<p>水道事業管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 元井水道事業管理者より委嘱状の交付（略） ● 元井水道事業管理者あいさつ <p>委員の皆様には、委員就任を快くお引き受けいただき感謝申し上げます。</p> <p>この経営審議会は平成 23 年度に発足し、これまでの 2 年間、委員の皆様から貴重な提言、意見をいただき、水道事業運営に反映させてきたところである。</p> <p>これから 2 期目に入るが、審議の内容は新潟水道の将来の方向性を市民の皆様へ示す、平成 27 年度からの新マスタープランの策定に関することが中心になると考えている。</p> <p>水道事業を取り巻く環境は年々変化しており、人口減少に伴い料金収入が減少を続けている一方で、老朽化した施設の更新や耐震化も推進していかなければならず、厳しい状況が続いている。このような中で、我々も、安全な水を市民の皆様へ安定供給するという使命を果たすため創意工夫しながら事業を進めているところである。</p> <p>委員の皆様には、これからの事業運営や新マスタープラン策定に向けて活発な審議をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員紹介（敬称略） <ul style="list-style-type: none"> 大川秀雄 新潟大学工学部建設学科教授 大橋泰子 新潟商工会議所 会員 小林満男 新潟国際情報大学情報文化学部情報システム学科教授 品田ヒサエ 水質モニター 高橋 明 公募委員 高橋明日香 公募委員 高橋信太 高橋公認会計事務所 公認会計士・税理士

事務局	<p>長谷川文子 新潟市消費者協会新潟支部理事 松明淳 公益社団法人 日本水道協会 調査部長（欠席） 渡辺和憲 一般財団法人 新潟経済社会リサーチセンター理事 事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道局出席者及び事務局紹介（略） <p style="text-align: center;">————— 議事 —————</p> <ul style="list-style-type: none"> 会長・副会長選出 会長：大川秀雄 委員 副会長：小林満男 委員 <p>まず、会長から挨拶をいただいて、引き続き、議事進行をお願いします。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> 議長あいさつ どこの町にも、人がいれば必ず水道が必要であるということで、ここに配布された新潟市水道 100 年誌にあるように、新潟市の水道においても長い歴史がある。 近年、問題となっている老朽化による水道施設の更新が必要となるなど様々な問題がある状況において、水道局は安全な水をきちんと供給するために鋭意努力されている。 この審議会においては、新潟市の水道事業がさらに発展していけるように前向きに審議し、よい提言ができるようによろしくをお願いします。 それでは、議事次第に従い議題に入る。
経理課長 経営管理課長	<p><議題 1> 平成 24 年度決算について</p> <p>○平成 24 年度決算概況・監査委員意見・経営分析指標等について説明 (質疑応答)</p>
A 委員	<p>3 点質問がある。</p> <p>1 点目は、資料 2 の決算概要の 3.業務実績に企業債現有高とあるが、現時点の企業債のうち最も高い利率はどのくらいか。また、繰上償還はできないと思うが、借換え等、どのように対応されているか。</p> <p>2 点目は、資料 3 の決算説明資料の 2 ページ目、収益的支出の営業外費用にある浄水汚泥対策費が、資料 4 の監査員意見によると、前年度に比べて増加したとある反面、東京電力(株)からの賠償金は僅かとなっているが、今後の見通しはどうなっているか。</p> <p>3 点目は、資料 3 の資本的支出の建設改良費の内訳で老朽管改良費が全体の 5% 強となっており、昭和 39 年の新潟地震で布設した石綿セメント管が大分残っているとと思われるがどのくらいあるか。</p>

総務部長	<p>企業債の利率であるが、平成 24 年度末で最低利率が 0.9%で、これは平成 15 年 5 月に借りたもの、また一番高い利率のものが 5.65%であり、これは平成 4 年に借りたものである。高利率の企業債については、国が財政的に厳しい公営企業対に対しては、借換え時の違約金等のペナルティは課さないということで、平成 19・20 年度に繰上償還し、低利率のものに借換えを行っている。</p>
経営管理課長	<p>2 点目の放射性汚泥対策であるが、震災が平成 22 年度末に発生しており、23 年度に支出した分として 3,565 万円を国から、9,894 万 2 千円を東京電力(株)から賠償金として、それぞれ 1 年遅れで収入している。24 年度に支出した約 4 億 6 千万円は、現在、協議を進めているところである。</p>
経営企画部長	<p>放射性汚泥に係る請求の基本的算出として、水道料金で賄うべきでない費用については、東京電力から責任を持って支払っていただくということで 100%請求することによって進めている。</p>
管路課長	<p>3 点目の石綿セメント管については、旧新潟市では平成 13 年度で更新を完了している。また、市町村合併時に引き継いだ 157km の石綿セメント管を平成 17 年度から 26 年度までの 10 年間で更新する計画で進めており、平成 24 年度末の残延長が 21.6km あるが、26 年度までに予定通り完了する見込みである。</p>
B 委員	<p>資料 3 の決算説明資料の収益的収入の特別利益で、過年度損益修正益が 1 億円ほどあるがどのような内容か。</p> <p>また、同資料のキャッシュ・フロー計算書の営業活動によるものにおいて、前払金・前払費用が 3 年続けて増加しているのはどういう理由からか。</p> <p>最後に資料 4 の監査委員の意見の(4)新会計基準対応の中で、減損や退職給与引当金のシミュレーション等を実施しているとあるが、概算で分かっていたら影響金額を教えてください。</p>
経理課長	<p>1 点目の過年度損益修正益だが、1 億円のうちの 9,800 万円余りが原発事故に伴う汚泥処理に係る損害賠償金である。</p> <p>2 点目の前払金・前払費用の増加については、主に建設改良工事に係る前払金が年々増加していることが理由である。</p>
経営管理課長	<p>新会計基準については、平成 26 年度予算より適用されることから、専門である会計法人とアドバイザー契約を結び指導を仰いだり、関係機関と調整を図ったりしながら進めているところであるが、数値的に示せる段階ではない。</p>

経営企画部長	<p>予定としては、今年 12 月の市議会で下水道部と足並みをそろえ、新会計基準の導入に伴う減損処理や退職給与引当金の一括計上などの影響を、平成 24 年度決算をベースにシミュレーションした内容で比較検討して示したいと考えている。次回の審議会の際には、その内容のデータを添付して説明させていただく考えであるが、大きな経営上の影響はないと考えている。</p>
C 委員	<p>資料 2 の決算概要の業務実績で、有収率が改善しているということだが、無収水量に該当する収入にならない部分は把握しているか。また、把握したうえで漏水がどの程度あるか、有収率をどこまで改善できそうなのか内部的な目標を教えてください。</p>
経理課長	<p>毎年行っている配水量分析によると、24 年度の特徴として、無効水量の漏水その他が約 110 万 m³ほど減少しており、配水管と給水管の自然漏水件数を比較しても 12%強減少している。</p> <p>また、有収率は平成 26 年度の目標 95%に向けて取り組んでいる。</p>
経営企画部長	<p>マスタープランの目標年次である平成 26 年度において 95%としているが、資料 5 の経営分析指標の有収率の経年変化を見ると、平成 18 年度の 93.26%を基準に平成 24 年度が 94.41%であり 1.15 ポイント上昇している。統計的には、これまでのマスタープラン期間中の取り組みにより、平均で年 0.1 ポイントの上昇傾向にあると分析しており、成果は確実に上がっていると考えている。平成 26 年度の 95%の目標には少し難しいかもしれないが、さらに漏水防止等に努め、できるだけ目標に近づけていきたい。</p>
議長	<p>このことに関連して、公園の水飲み場で使用した分の水道料金はどうなっているのか。</p>
技術部長	<p>公園の設置者、新潟市の公園であれば新潟市へ請求し、一般会計からいただいている。</p>
経営管理課長	<p><議題 2> マスタープラン後期実施計画進捗状況について</p> <p>(質疑応答)</p>
D 委員	<p>資料 6 のお客さまの視点に立った経営にある料金の日割り計算に伴うシステム改修だが、前回の会議で改修費が 1 億 6 千万円ほどかかるということで、検討が必要であるとの意見があったと思うがその後どのようなようになったのか。また、消費税が 8%に改定されることについても改修費用に含まれているのか。</p>

営業課長	<p>もう1点、資料8の24年度事業の評価について、一次評価結果の概要に「外的要因」とあるが具体的にどのようなものか。</p> <p>料金の日割り計算であるが、当初1億6千万円の見積もりであったが、精査した結果、1億3千万円ほどで契約した。</p>
経営管理課長	<p>消費税8%の関係については、対応する方向で12月市議会に提案する予定であり、システム改修費の補正予算等の準備を進めているところである。</p>
経営管理課長 補佐	<p>事業評価結果の概要にある外的要因とは、下水道工事等の他工事と一緒に管路の更新を行う予定だったものが、下水道工事の縮小によりできなくなったことなどが該当する。</p>
C 委員	<p>資料6の安全でおいしい水の供給の中の浄水処理の充実において、新潟市は農薬やトリハロメタンの基準を国より厳しく定めて管理しているとのことであるが、他の政令市などではどのような管理になっているのか。</p> <p>また、このことに関連して、ホームページに「水道水と河川水中の放射性物質の検査結果」が掲載されているが、ヨウ素やセシウムの検出限界値が変動する理由は機器の精度や検査機関の違い等によるものなのか。</p>
水質管理課長	<p>東京都では残留塩素の目標値を0.4mg/l以下に定めているが、政令市全体での比較まで行っていないため、それ以外の状況については把握していない。</p> <p>また、放射性物質の検査結果の検出限界値は、検査機器のコンディションや分析時間、サンプルに含まれる他の物質の影響によって日々変動する。高精度での測定が可能ではあるが、それ以外は計測できないという数値である。</p>
E 委員	<p>今までは新潟の水道はあまりおいしくないと言われてきたが、最近では水道水「柳都物語」をあちこちでいただくことがあり、市民の間でもおいしくなったという声が聞かれる。この柳都物語は災害時の備蓄用としてはどのくらい確保されているのか。また、どのような使い方をされているのか。</p> <p>もう1点、放射性汚泥を糸魚川市のセメント会社で再利用することとし、順調に搬出されているようであるが、今後の状況はどうか。</p>
総務課長補佐	<p>ペットボトル水「柳都物語」は年間3万本製造しており、そのうち2万本を災害対策等の備蓄用に回し、残りの1万本を販売用やイベント等のPR用に提供している。なるべく鮮度のよいものを備蓄するよう、順次、販売やPR用に回している。参考までに1本あたりの製造単価は70円程で、この柳都物語を通じて新潟の水道水のおいしさを再認識していただきたいと考えている。</p>

経営管理課長	<p>放射性汚泥の糸魚川市への搬出は 100 ベクレル以下の汚泥であり、各浄水場でたまり続けることはない状況ではあるが、抜本的な対策ではない。今までに発生した放射性汚泥のうち、8,000 ベクレルを超えるものは国が責任を持っており、100～8,000 ベクレルのものは県の積極的な関与が必要であるが、県知事が否定的であるため進まない状況にある。</p>
経営企画部長	<p>少なくとも放射性汚泥がたまり続け、浄水処理に影響を与えることのないことが大前提であり、緊急対策として信濃川水系の 100 ベクレル以下の汚泥を糸魚川市内で再利用することとした。阿賀野川水系はなかなか 100 ベクレルを切らないので、6 月から 200 ベクレル以下を県外で再利用させてもらっている。今までたまっている 200 ベクレル以上の汚泥は市議会に対し、国と県が連携し、統一見解を示すことで周辺住民へ迷惑がかからないよう、一刻も早い対応をとっていただくよう要望していくと答弁している。日本水道協会新潟県支部を通じたり、関連する 5 市が連携して県知事に要請するなどの活動も行っている。</p>
A 委員	<p>資料 6 の施設の適切な維持管理であるが、たとえば管路の耐震化や漏水調査などを計画どおりに実施することは、他事業と一緒に効率的にやらないと市民からは無駄ではないかと批判されるなど、非常に難しいように思われるが、柔軟的な対応はされているか。</p>
管路課長	<p>道路、水道、下水道、ガス等の事業者が工事を進めるにあたり、効率的に行うための占用調整会議という場で、それぞれが工事計画を持ち寄り、調整を行うシステムが国及び新潟市においてもある。</p>
A 委員	<p>たとえば相当な規模の橋梁に共架している配水管などで、道路管理者が急に予算がなくなったから橋梁を架け替える、あるいは補強工事が始まるといったことがあると聞いているが、その調整会議ではそこまで対応できるものか。</p>
管路課長	<p>具体的には今、新潟駅周辺の事業を行っているが、たしかに整備要件やスケジュールなどが変更になることもある。常に正確な情報を取り入れて調整し、予算化し、執行するように努めている。</p>
技術部長	<p>補足であるが、調整会議やその他大きなプロジェクトが動き出すときは、必ず占用会議の他に単独で調整する機会もある。そこでは計画に合わせ、別ルートで行うなど全体を含めた意見交換を行っている。今、このやり方を変更することは考えにくい。</p>

C 委員	<p>重要施設向け配水管の耐震化は平成 26 年度までに完了するということであるが、相手側である行政機関や医療機関の敷地内の給水管の耐震化は並行して対応してもらえるのか。</p> <p>また、地下水の水質に問題がある地域の方には保健所と連携して水道への切り替えを行っているところがあるが、幹線道路には水道管が通っているが各家庭が接続してくれないのか、それとも地域一帯の接続が必要なのか。</p>
技術部長	<p>重要施設向け配水管の耐震化は、第一止水栓という道路から宅地内への最初の止水栓までを水道局が施工している。その下流側は耐震化されていない場合が多いため、相手側にお願いをして工事に合わせて耐震化してもらっている。</p>
計画整備課長	<p>新潟市の砂丘列では地下水の水質がよく、共同井戸を掘ったり、または単独で飲用の井戸水を使用したりする方もいる。水道管は通っているが、水道へ切り替えを行わないお宅が多いため、定期的に水道局で働きかけを行っている状況である。</p>
C 委員	<p>井戸の水質検査は自己負担で行っているのか。</p>
計画整備課長	<p>井戸は保健所の所管であり、基本的には自己責任である。</p>
F 委員	<p>市内の小中学校の中には、夏になると水道水が汚くなり、赤い水が出ることもあるからということで、毎日、家から水を持って通っているところもあるそうだが、学校の配水管などは定期的に調べているのか。</p>
技術部長	<p>学校などの大規模な施設では水道管が直結されておらず、受水槽というタンクに一回水を受けた後、ポンプで加圧したりして屋上の高架水槽に送り、自然流下で給水するのが一般的である。赤い水が出るというのはタンクと高架水槽の途中、または蛇口までの配管等の劣化が大分進んでいるのではないかと。</p> <p>法律上では、受水槽に水が入った時点で設置者の責任になる。</p>
総務部長	<p>こちらを確認しておくが、新潟市教育委員会の施設課が教育施設を管理しているので、そちらにお話ししていただきたい。</p>
管路課長	<p>学校施設の水飲み水栓の直結給水化であるが、学校が週休二日制になり土日に学校の受水槽タンクの水が使われないことから、教育委員会に子供が飲む水栓だけは直結化を優先的に行ってもらおうよう働きかけを継続的に行ってきた。</p> <p>教育委員会でも現在、学校施設の改修計画に合わせて計画的に直結給水化を進めている。</p>

議長	<p>以前にも述べたことであるが、やはり子供たちが蛇口から直接水を飲むということが将来に渡って水道水を大事にするという姿勢につながるので、水道局の立場を越えてでも、教育委員会に働きかけ早急に実現させるべきである。</p>
E 委員	<p>「水先案内」はとても分かりやすい広報誌である。その一方で、水道週間は毎年行われているが、水道局の自己満足も多分にあるように思え、何を一番訴えたいのか、何を視点にやっているのか分からない。それであれば猛暑などを考え、ミスト装置の設置などにお金を使ってもらった方がありがたい。</p>
議長	<p>料金は上水道と下水道がセットで課金されるが、ミストや庭木にまく水のように下水とは関係のない水もあり、そういう仕訳を行えば、水道の利用は上がると思う。</p>
経営企画部長	<p>水道料金が割高に感じる大きな原因は、2か月まとめて支払っている方が多いことと、上下水道と一緒に請求されていることである。電気料金もガス料金も1か月に1回の請求でそれぞれ別々であることから、単純に4倍というイメージである。そのことから、平成21年12月から口座振替をされているお客さまを対象に、隔月検針で毎月請求というサービスを導入している。この施策も積極的に活用していただけるようさらにPRを進めていきたい。</p>
議長	<p>それでは、マスタープラン後期実施計画の進捗状況について、各委員より評価や提言等をいただく。</p>
D 委員	<p>管路工事等は一生懸命努力し、年度ごとに良くなってきていることが分かった。あとは放射能問題をよく検討し、市民に影響のないようにしていただきたい。</p>
G 委員	<p>様々な施策を展開されており、業務指標からも各事業の成果や状況を見ると、非常によく進捗していると思う。また、工事にあたっては占用調整会議や大規模プロジェクトの際の調整の場を持つなど、鋭意努力されていることが伝わった。</p> <p>浄配水施設の耐震化なども弾力的に対応されていることから、今後もこのまま進めてもらいたいと思う。</p> <p>一点質問であるが、災害時の情報伝達の強化として日本水道協会より衛星電話が配備されているということだが、毎月の回線料などはどこが負担しているのか。</p>
総務課長補佐	<p>衛星電話の月々の使用料も水道協会が負担している。</p>
F 委員	<p>計画どおりに進んでいると思う。</p> <p>1つ確認したいのだが、先ほどの料金の隔月検針毎月請求の場合、料金はどのように計算されるのか。また、申し込みは水道局にすればよいのか。</p>

<p>経営管理課長</p>	<p>2か月分の料金を2分の1にした分を請求することとなる。申し込みはコールセンターに電話していただければすぐに切り替えでき、水先案内でも毎号、積極的に募集記事を掲載しているのでご覧いただきたい。</p>
<p>A 委員</p>	<p>事業運営や決算関係など全般的に計画的にやっていると思う。</p> <p>人口減少による需要の低下とともに料金収入も少なくなっていくが、供給施設を廃止するといっても水利権の問題などもあり、施設能力を落とすのも簡単にはいかないと思う。ある時点で供給原価を計算し、原価計算が合わなくなれば需要者にお知らせし負担をお願いすることになるが、急をお願いするのではなく、水先案内等の広報を利用してこまめに状況を市民に知らせる努力を継続してもらいたいと思う。</p>
<p>経営企画部長</p>	<p>安全でおいしい水というのは最低限の条件であり、お客さまである市民に対し、安定的に供給していくためには、老朽化した水道施設の確実な更新を計画的に進めていく必要があり、事故・災害対策としても浄水施設や管路施設の耐震化を進めていく必要もある。そのためには当然、一定の投資をしなくてはならず、その元となる水道料金をいただき、一定の純利益を確保して、借金を返したり新たな建設投資に回したりというシステムを確実に実施していく必要があるので、今後はそういう部分をお客さまに分かりやすく説明できるような局内体制を構築していきたいと考えている。</p>
<p>H 委員</p>	<p>水を提供するに当たり、今後は収入が増えていくことは難しく、逆に原発事故などで想定していなかったような費用が出ていくばかりであると思う。こういうことから、水が自然にきれいになるということではなく、今後は危機災害などによって水が汚れていくようにも感じている。</p> <p>新潟市が国の水質基準よりも厳しく管理し、おいしい水を提供する努力をされていることなどは、自分たちがお金を出して賄っている水道が素晴らしいことであると理解していただけるよう、他人にもどんどん知らせる必要があると思う。</p>
<p>B 委員</p>	<p>計画については全体的に順調に推移していると思う。</p> <p>今後は計画にない事象への対応として、放射能関係の安全面を市民のことを考えて最大限対応していただきたい。</p> <p>また、新会計基準が導入されることになるが、お金が入った出たといった経理面だけでなく、どのように収益があり、どのように経費を払って、その結果どれだけ手元に残ったというように通常会社と同じように経営的な観点を持ってやっていただきたい。</p>

E 委員	<p>昨年度は先送りの事業もあったようだが、今年度は順調に進んでいると思う。</p> <p>水道局は市民に信頼されているということを知ってもらいたいし、一生懸命これだけやっているというだけではなく、これからは我々市民が協力できる分野も提示していくといった観点も必要ではないかと考える。</p>
C 委員	<p>水道環境の変化はものすごく厳しく、激しくなっている中で、お客さま CS 調査などを実施し、ニーズに対応しながら水道事業の再構築も進めていることは評価できる。今後も今以上の体制を続けていくには、水道局職員だけでなく業者や協力会社も含めた職員満足度を高め、意識改革や能力の向上を図ることで使命感もさらに強くなると思われる。そこまで踏まえた対応をしてもらいたい。</p> <p>特に災害時には、体制はできても、それを運営する人が大事になってくることから、是非、人を大切にするような組織になっていただきたい。</p>
議長	<p>マスタープランの進捗状況としては順調であるが、委員から指摘があったように計画に縛られず、効率化を図れる部分があれば柔軟に対応してってもらいたい。仮に目標が達成できなくても、きちんと説明ができれば計画が遅れたことにはならない。調整会議などは単年度でなくもっと長いスパンのものであってもよいのかも知れない。</p> <p>もう一点、原水である河川水に関しては、ひと頃に比べればかなり良くなっている。社会全体の環境に対する意識向上の効果が出ているのでないか。</p> <p>また、決算で利益が出ると料金を安くして欲しいという議論が上がるが、それは絶対にやってはいけない。大幅な料金値上げにならないような回避や、将来を見据えた新たな施設導入、老朽施設の更新など、来るべき将来を見て使っていただきたい。</p>
経営管理課長	<p><議題3>新マスタープランの策定状況について</p> <p>(質疑応答)</p>
議長	<p>「国際交流の推進」という項目があるが、交流することが目的ではないと思うのだが、その先にあるものはどのように考えているか。</p>
総務課長補佐	<p>先にあるものは、国際的視点を持つ技術者の養成である。現段階ではそのことを軸に新マスタープランの事業を構成していきたいと準備を進めている。</p>
議長	<p>以上をもって、本日の審議会を終了とする。</p> <p>————— 開会 12：00 —————</p>